

事業名称	八ヶ岳地域と共働する美術館プロジェクト		
実行委員会	八ヶ岳地域と共働する美術館プロジェクト実行委員会		
中核館	平山郁夫シルクロード美術館		
	住所	〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 2000-6	
	TEL	0551-32-0225	FAX 0551-32-0226
	ホームページ	<a href="http://www.silkroad-museum.jp/">http://www.silkroad-museum.jp/</a>	
構成団体	北杜市校長会、東京藝術大学 社会連携センター、八ヶ岳ミュージアム協議会、北杜市郷土資料館、八ヶ岳アート&クラフトネットワーク おらんうーたん、八ヶ岳あるこう会		
事業開始時点の課題分析	<p>中核館となる平山郁夫シルクロード美術館（山梨県北杜市）は、文化財保護活動と文化を通じた平和運動に尽力した日本画家 平山郁夫（1930～2009年）の寄贈を受けて2004年に設立し、収蔵品は平山郁夫の日本画とシルクロード周辺地域の文化財（約10000点）となっている。当館はこれを広く公開し、芸術や文化に対する人々の関心を高め、地域の文化振興に貢献することを使命としているものの、入館者は伸び悩み、財政面も苦しく、地域の少子高齢化や文化に対する関心の薄さなどにより、その使命を十分に果たしているとはいえない。その一方で、シルクロード周辺国の文化財に対する破壊は近年、深刻化し、かつて平山郁夫が提唱した文化財保護の精神、「異なる文化を互いに尊重しあうこと」の大切さはより切実なものとなってきている。また、当館の所在地である八ヶ岳地域（清里などの北杜市と長野県の富士見町・原村にまたがる「八ヶ岳観光圏」）には、首都圏から移住した美術家や創作作家の工房や飲食店、個人美術館も点在しているが、地域における芸術・文化活動は限定的であり、こうした作家や生産者たちと美術館、地域の結びつきもまた希薄な状況にある。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は、当館を中核館とし、地域の団体、教育機関等と共働して、地域の文化財、地域の創作作家の作品、当館の所蔵品を活用し、地域のあらゆる人々に対して、文化への関心を高め、文化財保護活動への理解を深め、地域の文化力を向上させることにある。また、これらの成果を地域や国内外に向けて発信することで、地域の文化活動を活性化したい。</p>		
事業概要	<p>本事業は、八ヶ岳地域と共働し、地域文化の発信の核となる美術館としておもに以下の事業を行った。（1）当館で所蔵している文化財を地域の文化資源として公開活用し、地域のあらゆる人々（特に子どもや社会人、障害者、外国人、高齢者等）が芸術、文化に親しみ、文化財保護活動への関心を高めるため、講演会やフォーラム、ワークショップ等のイベントを開催した。（2）館内の展示品の解説などを多言語化し、海外からの来館者に活用した。（3）地域住民や近年、増加してきた移住した創作作家や芸術家たちが主催・主体的に企画する地域のアート、音楽関係のイベントを支援、共働した。（4）地域の小中高など教育機関と連携し、地域の子どものに向けた参加型教育プログラムやワークショップ等を実施した。</p>		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館  <input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携  <input type="checkbox"/>イ ユニークベニユアの促進  <input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館  <input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動  <input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成  <input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発  <input checked="" type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施  <input checked="" type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館  <input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動  <input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本助成事により、地域の教育機関や福祉関係者、創作作家や生産者と共働して多くの活動に取り組むことができ、地域のさまざまな人と連携することができた。展示資料や鑑賞ツールの多言語化を進め、サイトからも発信することができたので、外国人訪問客の利用が可能となり、海外のさまざまな機関からの問い合わせも増加した（アメリカ、プリツカー財団、中国、敦煌研究院、西安工程大学、文物交流中心、対外友好協会、陝西歴史博物館等）。中核館が所蔵するシルクロードの文化財を活用したイベント、講演会、コンサート、絵画教室やワークショップも、平成26年度から文化庁の助成金を頂いたことで、次第に恒例化し、地域社会に少しずつ定着し始めてきた観がある。その結果、地域のあらゆる人々、とくに子供たちにも、さまざまな文化や芸術に触れる機会を提供することができ、地域の文化芸術活動の活性化にも貢献することができた。今後もこうした活動を続け、発展させていきたい。</p>

【事業実績】